

# 子ども総合センターだより

あした

## 明日もしあわせ通信 (第47号) 令和2年5月号

### ななめの関係

子どもの頃の楽しみのひとつが、いとこたちと会うことでした。お盆やお正月の祖父母宅は賑やかな極みでした。いつも一緒に暮らしているきょうだいは1人か2人。毎日一緒なのであまり刺激はありません。でも、ほぼ半年ぶりに会ういとこたちとのふれあいは新鮮で、子どもにとってはちょっとした異文化交流の場となっていたように思います。

きょうだいとは微妙に違う関係性、きょうだいより遠くて、他人よりは近い、同性のきょうだいのいない者は同性兄弟姉妹の補完的な存在でもありました。

そんな楽しみを味わうことがない子どもたちがいる、と聞いたのは明石要一さんの講演でした。いとこがない。考えてもみなかったけれど、そう言われれば確かにそうです。私たちが子どもの頃とは社会環境も価値観も、人の生き方も家族の様相も随分と変わりました。

明石さんの言葉は続きます。

「今の時代は、縦・横の関係ばかりで、ななめ

の関係がない、だから息苦しいのだ。」と。

上下の関係性も、横の関係性も、人は真正面に向き合うとしんどいものです。

記憶をたどれば、いとことともに祖父母宅に来ていた叔父や叔母から時おり叱られたり、注意されたり、たしなめられたりしました。それは、父や母の言葉とは違って、反発心を抱かない叱責であったり、いつまでも心に残る示唆であったりしたように思います。ななめの関係にある人の言葉だったから耳を傾けられたのだと思います。

今、変わってしまったものをもとに戻すことはできません。息苦しさを感じている子どもがいて、そこにななめの関係がないのであれば、それに代わる人間関係があればよいのではないか、ほんの少しおせっかいな気持ちをもった、周りの人が必要なのではないか、と思う今日この頃です。(W)



### 適応指導教室「はばたき」

～自分の居場所を見つけよう～

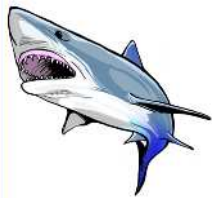
「子どもが学校に行きにくくなり、はばたき教室を見学したいのですが、どうしたらいいの？」

このような問い合わせをよく耳にします。次のような手順をお願いします。

- 1 学級担任の先生に、はばたき教室の見学や相談の希望を伝えます。または、はばたき教室に直接電話をしていただいても結構です。その時に相談したい日を伝え、予約をします。
- 2 相談や見学は、保護者の方のみ、子どもと保護者、子どものみ、教師と保護者など、どなたが来室されてもかまいません。来室予定の人数だけその時に知らせてください。
- 3 予約した日に来室し、困りごとについて相談します。希望があれば、その日に教室を見学することも可能です。
- 4 次に、体験するかどうかを家族で話し合ってもらい、希望があれば実際に体験入室をします。1日だけの体験も可能です。10日間くらい体験できます。
- 5 続けて来てみようと思えば、入室するための簡単な書類を学校へ提出してもらいます。

お子さんから「何かしてみようかな」という言葉が出たら、是非はばたき教室をのぞいてみてください。教室の子どもたちは、毎日元気に活動をしています。

はばたき教室連絡先 (電話番号089-989-5022 直通の携帯080-2974-4581)



## 鱧(ふか)の供養塔.

下灘沖に鱧(サメのこと)が大量に群れていた頃のことを知っていますか。

それは昭和24年のこと。漁船は恐れて逃げ帰っていましたが、勇気ある漁師が地元のかじ屋に特別の鉢(もり)を作ってもらい、サメを突きました。海面に出た背びれが1間(約1.8m)あったとか、船(当時は小型トロール船と伝馬船)のそばに寄せたら船よりも長かったとか、伝馬船が海中に引き込まれそうになったとか、「ジョーズ」のような逸話が残っています。やっとのことで浜に揚げたら700貫(約2600kg)もあったと言いますから、話半分としてもかなり大きかったのでしょう。近所の小学校から先生が子どもたちを連れて見物に来たほどでした。

初めは30匹ほどを肥料として売りましたが、大したもうけにはなりません。しかし、サメから油をとって芋を揚げるとおいしくて、その頃は食料難でしたから食用油として飛ぶように売れました。サメ1匹の肝だけでドラム缶2本分の油が採れたそうです。身は切って干し、これがまたおいしくて、松山の方からも客がやってきて引っ張りだこになり、しばらくはいい思いをしたようです。

下灘でサメが獲れたのは後にも先にもあの時だけで、今の時代にサメが1匹でも出現したら、大変な騒動になりますね。

下灘漁業協同組合の裏には、当時の漁師が昭和24年に建てた鱧の供養塔があります。(N.T)



## 《センター長のつぶやき》

### 「神も仏もない」のか

高校2年生の時、バイク走行中に乗用車と正面衝突し、30m以上空中を飛んだ。誰が見ても即死の状況だった。つい数年前には、白浜から和歌山に向かう高速で、バイクの上で一瞬眠ってしまった。その時、対向車線を大きなサイレンを鳴らして救急車がそばを通り抜けた。はっと気が付き、衝突を免れた。「命があった」。

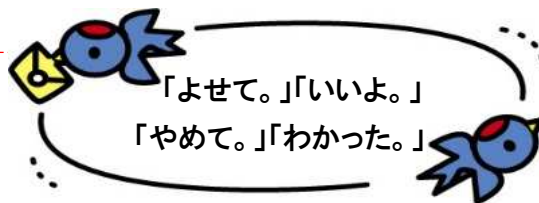
今静かに人生を振り返り、気付いたことがある。私の人生には「確かに神様仏様がいた。それは人だったんだ」と。

親元では、家族が。東京の7年間も、あの人この人がいたから見知らぬ大都会で充実した生活を送り、教員にまでなれた。

教員になってからも、あの学校、あの職場で、いろんな方に愛情を注いでいただいた。教員の35年間でとても幸せだったのも、あの人この人のお陰である。出会った子どもたちも皆天使だったのである。

やがて毎日が日曜日の日々がやってくる。その時には、遠く離れた、私の神様仏様天使たちにもお会いすることができる。ゆっくりお礼を言えることを楽しみにしている。

(DOIG)



「よせて。」「いいよ。」  
「やめて。」「わかった。」

## 発達支援巡回相談

子どもたちは遊びに入れてもらいたい時「よせて。(いれて。)」と声を掛けます。すると、相手が「いいよ。」とか「あとで。」とか返事をします。また、「やめて。」と言うと「わかった。」とか「ごめんね。」とか返事をします。この、「よせて。」「やめて。」が言えるようになると遊びが成立するようになります。遊びの仲間に入れてもらえないと寂しい気持ちになる。それで、先生に教えてもらいながら返事を考えるようになります。同じように「やめて。」と言われて止めないとけんかになることも学んでいきます。関わりの始めが「よせて」や「やめて。」なのです。(A)

伊予市子ども総合センター

伊予市総合保健福祉センター2階

伊予市尾崎3-1 ☎989-6226

携帯 080-2974-4580

